



四日市市立
港中学校だより

青葉旬う

令和5年12月12日
No.13 発行：校長

12月、師走です。師走の語源には諸説あるとのことですが、有力なのは「12月はお坊さんがお経をあげるのに忙しく走り回るから」とのことです。ここでの「師」は僧侶をさしているわけですが、私たち教師としては、この「師」は「教師」の「師」では？ と言いたくなります。成績付けなど毎日バタバタしておるところです。保護者の皆様もご多忙の中、大変恐縮ですが三者懇談会にお越しいただきます。どうぞよろしくお願いいたします。



職場体験（2年生） 11月29日～12月1日

3日間、それぞれの職場で貴重な体験をし、たくさんの職場の方々からお褒めのお言葉をいただきました。各事業所の皆様、ご協力ありがとうございました。今後、2年生たちはお礼状や体験のまとめなどを作成し、職場体験学習を終えます。今回の学習で学んだことを活かし、将来の進路を適切に選べる力を身に付けてほしいと思います。

【ご協力いただいた事業所】（順不同、敬称略）

主体会病院、さぼーと整体接骨院、角源 北浜店、住友電装、hinemos
bake & deli、たいすい保育園、常磐小学校、美容室ターミナル、
まるきや、ゑびすや中央緑地店、びっくりドンキー中央緑地店、
スターバックス四日市中央緑地店、スポーツデポ四日市日永店、
海の星カトリック幼稚園、四日市幼稚園、浜田小学校、四日市市
中消防署、バロー北浜田店、アピタ四日市店、浜田保育園、トヨタホーム、トヨタカローラ三重
四日市本社店、S E R I 動物病院、株式会社Y o u よっかいち



食育の授業より（1年生） 11月29日

栄養教諭の井原先生に食育の授業をしていただきました。井原先生は日頃は四日市市給食センターで中学校給食の業務をされています。授業の内容の一部を紹介します。

○1年間に廃棄される食品の量は、学校のプール何個分ですか？

答：2万個分（612トン）

主な食品は、1位：主食（ごはん、パン、めん） 2位：野菜 3位：おかず

捨ててしまう主な理由は、「食べきれなかった」「傷ませてしまった」「賞味・消費期限が切れていた」

○漁獲量が減っているのはなぜですか？

答：魚のとり過ぎ、温暖化、プラスチックごみ

「海を守る」という観点で食品を選ぶ方法があります。その時の判断材料になるのが、MSC ラベルです。



MSC ラベルとは「水産資源と環境に配慮し適切に管理された、持続可能な漁業で獲られた天然の水産物の証」です。

○エシカル消費とは？

答：地域の活性化や雇用などを含む、人・社会・地域・環境に配慮した消費行動のことです。私たち一人一人が、社会的な課題に気付き、日々の買物を通して、その課題解決のために、自分は何ができるのかを考えてみる
こと、これがエシカル消費の第一歩です。



人権講演会 ～いのちの授業～ 12月7日

毎年、浜田小6年生と港中全校生徒との合同で、人権講演会を行っています。今年は四日市市にある「いしが在宅ケアクリニック」の理事長・院長である石賀丈士先生にご講演いただきました。石賀先生は「治らない病気に寄り添う在宅医を育成したい」と、在宅医療に従事し、今では全国的に注目されていることや、その成果から四日市は日本で一番病院で看取られる人が少ないとのことでした。講演の内容を一部紹介します。



○緩和ケアについて

緩和ケアというのは、病気が引き起こす苦痛や食欲不振、だるさ、呼吸困難などを徹底して取り除いていく治療で、患者さんがすこしでも楽に過ごせるようにすることが最優先となります。緩和ケアによって患者さんは、食事をおいしく摂ることができ、夜もよく眠れるようになり、体力を回復させることができます。また、患者さんを精神面でもサポートしていきます。余命宣告で不幸のどん底へ突き落された患者さんの気持ちをカウンセリングによって前向きにさせ、残りの人生を精一杯楽しめるように手助けをします。

○在宅医療の進化



医療機器の発達や改良に伴い、入院中とほぼ同様の治療が可能となっています。「いしが在宅ケアクリニック」では、約 800 名の患者に対し、スタッフ 64 名、医師 15 名で、24 時間 365 日の対応をし、患者や家族の意思を可能な限り尊重して、一人一人に合わせたきめ細やかなケアを提供しています。

○在宅で看取ることについて

昨年「いしが在宅ケアクリニック」で 500 名の患者を在宅で看取りました。この数は日本一です。つまり、それは自宅で最期までしっかり看取ることができるという信頼の大きさだと思っています。しかし、日本では家族の看取りを経験できる人はごくわずかです。そのために講演会や小中学校などで「いのちの授業」を行い、看取りの意識を変える活動を行っています。子どもたちには看取りの経験をし、命の大切さについて考えてほしいと思っています。